

# ひと目でわかる2005の業績計画

平成17年度の業績目標と目標達成に向けた取り組みを紹介します

※平成19年までの目標は4ページを参照。

- 広域交流を進めるみちづくり
- 地域の自活を支えるみちづくり
- 人と自然を大切にすみちづくり
- 県民参加のみちづくり



## 1 山口県に住むどれくらいの人が、快適に高速道路にアクセスできるか？ 高速IC30分圏人口カバー率

山陰地域の多くは、高速ICまでの移動に30分以上を要し、広域交流の促進や地場産業の活性化の課題となっています。陰陽を結ぶ道路ネットワークの強化を図るため、「山陰自動車道」の延伸や「地域高規格道路 小郡萩道路」等の整備を推進しています。

【平成17年度の主な取り組み】

- ・国道191号 萩・三隅道路の整備推進
- ・地域高規格道路 小郡萩道路の整備推進

実績値：H.16

90%



目標値：H.17

90%



## 2 渋滞によって、どのくらいの損失があるのか？ 渋滞損失時間

山口県内の渋滞による損失を時間で表すと、年間4,321万人時間になります。これは、県民一人あたり約29時間をロスしていることになります。渋滞の緩和・解消に向け、バイパスの整備や現道拡幅、交差点の立体化等の道路整備を推進しています。また、交通需要マネジメント(TDM)※1等による交通負荷の低減に取り組んでいます。

【平成17年度の主な取り組み】

- ・国道191号下関北バイパス部分供用(L=1.1km)
- ・県道藤生停車場錦帯橋線(平田バイパス)全線供用(L=3.7km)

実績値：H.16

4,321

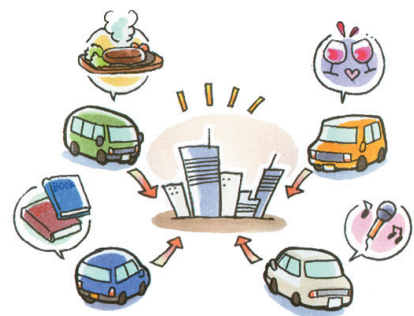
万人時間/年



目標値：H.17

4,294

万人時間/年



## 3 どれだけの人がまちの中心に快適にアクセスできるか？ 圏域中心都市30分圏人口カバー率

山口県には中規模の都市が点在しており、8つの広域生活圏からなる分散型の都市構造を形成しています。合併により広域化する市町村の一体性を高める道路整備が望まれています。中山間地域の連携強化や日常的な利便性・安全性の向上に向け、市町村合併支援道路※2等の整備を推進しています。

【平成17年度の主な取り組み】

- ・国道2号 厚狭・増生バイパスの整備推進
- ・国道376号 須々万バイパスの整備推進

実績値：H.16

81%



目標値：H.17

81%



## 4 要防災対策箇所はどのくらい解消されているのか？ 要防災対策箇所解消率

平成17年度は度重なる台風の上陸などにより、崩落や倒木などの道路災害が数多く発生しました。安全性の向上を図るため、自然災害の危険性の高い「要防災対策箇所」について、法面補強工事や代替路線の整備等を進めています。

【平成17年度の主な取り組み】

- ・国道191号(萩市鎖峠)法面工事
- ・県道岩国玖珂線(玖珂町欽明路)法面工事

実績値：H.16

20.7%



目標値：H.17

22.6%

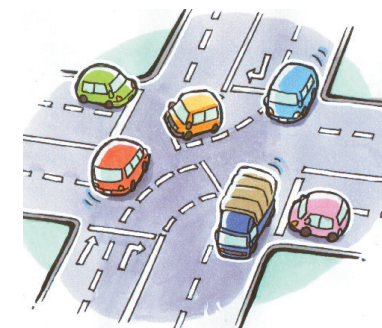
※1 交通需要マネジメント(TDM)  
パークアンドライドやノーマイカーの実施など車の利用者の交通行動の変更を促すことにより、都市または地域レベルの交通渋滞を緩和する交通施策です。

※2 市町村合併支援道路  
新市町村内の公共施設等の拠点を連絡する道路・街路などについて、短期間で整備が図られるよう優先採択・重点投資を行うことにより、合併市町村の一体化の促進を図ることを目的としたものです。

※3 事故危険箇所  
10年に1度以上の確率で死亡事故が発生する恐れの高い箇所、または、幹線道路の平均事故率の5倍以上の確率で事故が発生する箇所を「事故危険箇所」として指定し、都道府県公安委員会と道路管理者が連携して集中的な死傷事故抑止対策を講じています。

※4 あんしん歩行エリア  
歩行者及び自転車利用者の安全な通行を確保するために緊急に対策を講ずる必要があると認められる住居地区又は商業地区内の人身事故発生件数が、1km<sup>2</sup>当たり年間42件以上で、概ね100~200ヘクタールの区域を「あんしん歩行エリア」として指定し、都道府県公安委員会と道路管理者が連携して、面的かつ総合的な死傷事故抑止対策を講じています。

※5 交通バリアフリー法  
高齢者、身体障害者、妊産婦などの公共交通機関を利用した移動の利便性及び安全性を向上するため、旅客施設を中心とした一定の地区において市町村が作成する基本構想に基づいて、公共交通機関や歩道ネットワークのバリアフリー化を推進することを定めた法律です。



## 5 死傷事故が引き起こされる割合は？ 死傷事故率

死傷事故の約4割は交差点付近で発生しています。また、高齢者の事故死者が全事故死者の約4割を占めています。事故の削減に向けて、「事故危険箇所」※3や、「あんしん歩行エリア」※4における安全対策を進めています。

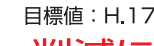
【平成17年度の主な取り組み】

- ・安心歩行エリアの整備(山口市龜山地区)
- ・事故危険箇所の対策(国道2号周南市花島町)

実績値：H.16

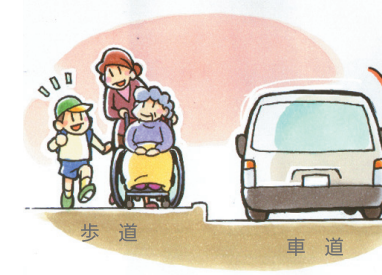
69.5

件/億台km



目標値：H.17

削減に努めます。



## 6 歩行者が安全に通ることのできる道路の割合は？ 歩道設置率

市街地や通学路における歩道整備や主要な旅客施設周辺のバリアフリー化が課題となっています。歩行者の安全性向上に向け、歩道の設置やペイントによる歩行者と自転車の視覚的な分離を行っています。また、交通バリアフリー法※5に基づき、主要旅客施設周辺の歩道ネットワークのバリアフリー化を推進しています。

【平成17年度の主な取り組み】

- ・県道光玖珂線 歩道整備(玖珂郡周東町千束)
- ・県道山口阿知須宇部線(山口市阿知須町浜区~宇部市東岐波)

実績値：H.16

40.4%



目標値：H.17

40.8%



## 7 山口県の道路ではどの程度のCO<sub>2</sub>が排出されているか？ CO<sub>2</sub>排出量(自動車交通)

日本のCO<sub>2</sub>排出量の約2割を運輸部門が占め、そのうちの約9割が自動車交通によるものです。自動車のCO<sub>2</sub>排出量は、走行速度の低下とともに増加する傾向があり、都市部の渋滞が大きな発生要因となっています。CO<sub>2</sub>排出量の削減に向け、都市部の交通円滑化のための道路整備を進めています。

※平成16年山口県環境白書において公表された平成13年値(351万t-CO<sub>2</sub>/年)を表記しています。

実績値：H.16

351

万t-CO<sub>2</sub>/年



目標値：H.17

削減に努めます。



## 8 身近な道路に対して、どのくらいの人が満足しているか？ 道路利用者満足度

アンケート調査によると、山口県の「よく使う道路全般に対する満足度」は全国で最も高い一方で、「最近、道路行政は変わってきているか」との問いに対する満足度は23位と平均的な評価になっています。ニーズの反映やさらなる透明性の向上に向け、利用者とのコミュニケーションや、事業の適正な評価を推進しています。

【平成17年度の主な取り組み】

- ・ボランティアロードでの活動
- ・事業評価の推進
- ・ロードセーフティステーション等からの情報収集

実績値：H.16

3.13/5点



目標値：H.17

向上に努めます。